

## セッション5 その他

---

### 22. 透析通信システム（Future Net Web+）を導入して

○藤原 大貴（フジラダ件）<sup>1)</sup>、鈴木 健一<sup>1)</sup>、山寄 覚志<sup>1)</sup>、佐藤 智明<sup>1)</sup>、長谷川 亮<sup>1)</sup>、  
石津 健太<sup>1)</sup>、川村 麗<sup>1)</sup>、市場 晋吾<sup>1)2)</sup>、鶴岡 秀一<sup>3)</sup>、酒井 行直<sup>3)</sup>  
日本医科大学付属病院 ME 部<sup>1)</sup>、日本医科大学付属病院 外科系集中治療科<sup>2)</sup>、  
日本医科大学付属病院 腎臓内科<sup>3)</sup>

---

**【背景・目的】**当院では病棟新設に伴い2016年10月に日機装株式会社製透析通信システム Future Net Web+（以下、FNW）を導入した。当院でのFNW導入前と導入後の運用に関して比較し今後の課題についてまとめたので報告する。

**【経緯】**透析記録や指示受けは全て紙媒体で行っていたが、導入後は紙媒体とFNWを併用している。2019年4月にFNWが使用できない事象が発生したが紙媒体の運用も行っていたため治療は問題なく行えた。

**【考察】**FNWは除水量の自動計算や血圧等自動で記録されるため、業務負担の軽減と紙媒体を減らすことができると考えていた。しかし、当院ではDWが決定していない透析患者が多くFNWで除水量が自動計算されない為、手動計算と過去の透析記録を参考に除水量を決定している。また災害時にはFNWが使用できないことが予測されるため、紙媒体を減らすには時間がかかるのではないかと考えた。今後、FNW主体の運用に切替えるためにはトラブル時の運用や安全に治療が行えるように機器操作、各設定の理解を深めスタッフ間での共有が必要であると考えた。

**【結語】**FNW導入前と導入後の運用と課題について報告した。